ヤマハギ（エゾヤマハギ）

Lespedeza bicolor

マメ科

ヤマハギ

名前の由来
山に自生するハギの意。「ハギ（萩）」はハエ（生え）き（芽）で、毎年古い株から芽を出すことから。（エゾヤマハギは、北海道《蝦夷》のヤマハギの意。最近はヤマハギと同種とされるようになった）漢字名：山萩（蝦夷山萩）

形態的特徴

樹高２ｍ。幹は灰褐色で太さ３～４㎝と細い。また幹は下から分かれて出る。葉は３出複葉、小葉は広倒卵形で先は円く長さ２～５㎝、裏面は微毛ありやや白色、互生。花は長い総状花序に、紅紫色で長さ約1.5㎝の蝶形花をつける。８～９月に開花。果実は長さ約１㎝の平たい楕円形で、10月成熟。

類似種との見分け方：ミヤギノハギは枝先が垂れ、花の色が濃い紅紫だが、ヤマハギは枝先が垂れ下がらず、花の色はもっと薄い紅紫色。

ヤマハギの花。
マメ科に多い蝶形花

ヤマハギの花

ヤマハギの葉。どちらもこれで１つの葉（３出複葉）。
先は円く、裏に微毛がある

ヤマハギの樹形

ヤマハギの枝分かれ

ヤマハギの冬芽。２～３㎜

ヤマハギの樹皮。灰褐色

生活サイクル

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
開　花　期					―	―						
結　実　期							―					

生育環境・分布

草原や林縁、山野の道路沿いなどに生える。

分布：国外分布は、朝鮮、中国、ウスリー。国内分布は、北海道、本州、四国、九州。北海道内分布は、全域か。十勝地方生育状況は、全域。

ヤマハギは日当たりのいい場所に多い。堅い土でも生える

繁殖生態・寿命

８～９月に開花。果実は長さ約１cmの平たい楕円形、10月成熟。鳥や動物に実を食べられることで種子分散をおこなっているものと考えられる。寿命は不明。

他生物との関わり

鳥や動物に実を食べられることで種子分散をおこなっているものと考えられる。

コミスジ、ツバメシジミ、トラフシジミ、ルリシジミの幼虫の食樹となる。

コミスジ〈左オス・右メス〉。幼虫時、ヤマハギを食樹とする　（標本-吉原利之氏所蔵）

ルリシジミ。幼虫時、ヤマハギを食樹とする
（撮影-吉原利之）

ツバメシジミ。幼虫時、ヤマハギを食樹とする
（撮影-吉原利之）

植栽関係

土壌：埴質壌土、適潤性、通気性は中程度の場所、ｐＨは耐アルカリ性、堅密度は堅いところでも耐える。光は中間性～陽性木。直径３～４cm、樹高1.2m、根系の最大深度80cm、根の広がり半径0.5m。根の支持力は強い。移植難易度は中程度（葉が開いた後は困難）。根粒菌と共生しているので、肥料木として使われる。

興味深い話

■公園・庭園樹、花材、砂防用、家畜飼料などとして用いられる。また、根粒菌と共生しているので、肥料木として使われる。

■十勝地方のアイヌ語で「シンケプ」という。

■他地方のアイヌ語では「ヌプシンケプ」ともいう。サケの皮でチェプケリ（サケの皮の靴）をつくったが、ヤマハギの花が散る頃に川を上るサケが最も皮が厚くて、丈夫なのだという。茎には嫌な臭いがないため、サケの背を開いて乾燥させるひっぱり棒に用いた。魚を焼いて食べるとき、ヤマハギの茎に刺したり、挟んだりした。

配慮事項

直径３～４cm、樹高1.2m、根系の最大深度80cm、根の広がり半径0.5m。根の支持力は強い。移植難易度は中程度（葉が開いた後は困難）。

参考文献

「北海道　樹木図鑑」佐藤孝夫　亜璃西社　1990

「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫　北海道大学図書刊行会　1992

「樹木大図鑑」高橋秀男監修　北隆館　1991

「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修　植物文化研究会・雅麗 編集　柏書房　1996

「新装版　樹木根系図説」苅住昇　誠文堂新光社　1987

「北見の蝶」木村辰正　北見市教育委員会　1994

「アイヌ植物誌」福岡イト子　草風館　1995

「沢井トメノ　十勝本別分類アイヌ語辞典」本別町教育委員会（編・発行）　1989